東海道中膝栗毛二編

三上

ヘ 13
3286
3

本

藤栗毛後編序

門 へ 13
號 3286
巻 3

戸山叢稿の紙を作れば其略はこれを渡て
又土橋を過ぎ小河に出て友と旅ゐ行く茅を
苅て小茅又は茅花を拔き蛙が池
岩屋を過ぎ鶴ヶ崎なる竹内四郎が
村を過ぎて小坂飯を祥鳥かせる賀繩
まハ伊勢守氏の祖屋敷を歎く丁係氏の君

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏
寄贈

風呂に光の御姿しハ〳〵も憐ちたハゆるるなく。
大井川の岸に佇ハ鶴の脛長いへとも物を
忍ぶる土きりし西風ハ裸虫の長しして
赤裸の境界ハ仏也女ハ方物の霊しして
万物の弄物ハ老人の都意馬の欲を倦
間る時ハ猿の腸ちぎれ断さるとき物の發
驚しも土くて天地の逢縁よりて悟りなく。
月月の過客ハ土くこうしてこそ行かり
ものハ十筋食の主ハ一ツ乃為ハ一ツ乃
勝栗毛を養ハ足のハの脚屋ハ蒲ハ一冊
子を負て位相根ハとぐ古屋
仲間の初市ハ價を値ハ今本馬ハ上ハ貫目
中脇ハ数手文力を也ハ一数ハ古城
ハいくるハ人ハ迷ハ迷のうちハ駑駑の情

能と記する全篇の理功を成世孫栄毛

一日千里をくだしし

享和癸亥春

芍薬亭美人蓑原長根題

本清

道中膝栗毛後編凡例

○此編栗毛後篇八笈根駅より大井川を渡て
終る迄駕中旅客の濶談逢篇偶偶乃風
色を雅情を穿て著述文初篇不同じ
○歌を風雅よりて音律を清閑の差別あり。
但云々万伝の通称は異なる長あり笑ふべきは
能ぶ古代の詞を却て因全体を強ひて組来編
の謂なり。こゝ八駅を取ふて。ひとりくとりば
いハ切んぢるこ酒を呑ぶと腹を食べぶと貪べぶ

吟ぎんざるなりと 物類称呼 ふんそうり

○怨おそろしてくりかるとは桐きりなれはてハあるくなかとゝいひ嬢まんなれハ
てハ名ぎなくいひをれんとゝいふ同書にて為
とけ孫ひとゝいひんなりといふとけを色といふハ
古今集 ふういぎのきやもんこゝかけ出なくよそ
をうふせるさやの中山とあり

○おでいとゝハ尾張国にて指の西をいふとゝ嬢河辺
ゆゝとゝ物事 嬢きるふいふ 和字正濫 ふかゝまそふ
大おうぎりのありとおほ同おぎとゝ閑まるふよまをて

あしきをるの意とゝいへ共おそしいふ助字へ

○桐嬢をふてまをおくいハ味うりぎの下字

をとりてまぎとゝいハ助字なり

○却て乃中笹根ゝ伊勢物語にハ馬をおまと

いひ又いまとゝ 日本紀 ゆるといまとよませり

仍ておをゝておまとゝもいふ

○なぜとゝをあぜとゝいハ 万葉 ふあぜそも考

よろきまきぬとあり

○うゝとゝハ我等の物語おれゝとちぢめてあゝ

いひおくこと、なるべしといふ

○殺るゝことを相言ふてハ殺ることいひ後をとふ

おびゝるといふなり、源氏ふ褪消ことを

○なでゝあでゝといふ和ハ紫日記ふなでゝ世の

まなびてことあり

○忍なるりのと後をふてひまてくれとふ

○おそふぶてつもなしといふ和ハ性理大全ふ冷土轍

ことなるべし後列ふいとひまてもなしといハまをかれ

おハまをうくもなしといふ

○ふしゝといふハ生なり ふしねしてあそびなり

○まをることとかゝまるといふハ稽古ふよくしく学をる

事を行ふといふ行の字ハくしき義なり仍て

くゝまるといふまるハ居の心ふて稽古かゝまる

のまるなり

○常ゝ狩るよ時あゝまでにはまを申るあゝし

くる羽のことを解くふ仍て排役の法ふ俚

俗の俗言方法のまを述してをおりことと

紀ゝ士

○選張本任貴法の悔ゝ懍なる作ゝい初服孔ぬけ
糸の岩苦亜ゝ舊馬ゝる土僂ゝ広の居ゝの姫糸
初巻よりねるとゝ兎ゝ案ハ漫編ゝ僂
ゝの赤ゝし

十返舍瓦蔵

浮世道中膝栗毛後編

十返舍一九著

長崎ゞ来城ゞ記ゝ松ゝ雅琴ゝ問ゝ浪
下敷ゝ書ゝ牧乃作笛ゝ付ゝ物
郷ゝる古敷ゝ稚桑毛後扇ゝ序ゝ
きゝヒャリゝ玉川くゝ走ゝ言葉ゝ
ゝりゝ江戸ゝ祇園ゝ八ゝ場ゝ京ゝ住ゝ
浦江ゝ来ゝ

毎もまたてく。伊勢へ七度熊野へ三度。お山岩
さゝへ八月糸の大祭とて記しぶつぶつ言ゝく
出のけ。福門のうゝ元ぶの名ぶ多くの門ゝ元ぶ稲
の祭よりまつてゝ遊むこゝ。ばけ者根の山の力ゝ
ぎ山や久ゝこの踏ゝ寺ゝ寺ゝ魚の名所多き
山ゝ。うる。あまぎりゝ。めいぶ門ゝ。ぶ門ゝ。ぶ門ゝ。ぶ門ゝ。
ざけのまゝ寺ゝ。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。
ライ。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八。ぶ八

りんぞうふりそうぐはけんりんぞう。ぞうりゃ
ふがらそ折とこそちぐ五ぞ。おぞ者門そそはけんりんぞう
ぞうよんぐへどうーとちそうぬくそうぞ。ぞいよりちぐひて「ヒャア出羽者の
せんぞうせんぞうぞ。ぞ。ぞうぞ。ぞうぞ「ぞうぞうぞうあおれぐせんぞうせんぞう
ぞうアぞア。そ枝いそ門つけぐア「ヒーン」ぞうぞうふようぞ名
のぞ。ぞそうぞうぞうぞ人の女中ぞちかどとうぞうぞ「ヒャア」ぞ。ぞいく
ぞうぞんぐそれぞそうぞうぞそうぞ。ぞ。ぞ。

ごーでぁつこ（仮二）まめゆ。ぎ。姫ろくさるこ。
ふんどーと被へられて。それなりゅ見まれこから
しんぷ。ちろけっぷ。まめと。はろて。新もそれて
あこちろ。ぷきこ。稲へおしこぐ（やく）こそ。ぎろこそ
ろろぐ。ぎんまめぐびぐ。おのの（仮二）こ（ナニ）ぜんてへ
まめぐ。あじけ。稲へのこ。ぷる。紅（くれぐ）とくへ（やく）るぜ
（仮二）ぷめと。ぎるかぷ。まれぐびぐ。ぎちぐるへ。コ
おいぷぁ。ぁれ。ぷ。でも。絡（きん）の。ぷんどーど（やく）ぎれど

こ門。でや。稲。ぎ。なぐ。法。りまの。ふ。死。へ。ぷ。きゃぁ
ぎめへ。ぷきぬと。ぎめ。ぷも。稲へ。ぎ。ぷ。まぷ。ぷびろ
ぷ。ぎ。ぷ。ぷ。ぎ。ぷ。ぎ。ぷ。ぎ

那てこは中とのくう建仏ふれてる。そこは藤例お。茶
屋の婦とるらべて「おやとこるさんはまァー。ぐろう
徒公もおざりやァと。もちようわごりやァー。河
せんめ惜ようあごりやァし。お休なさんやしく
除ニ「きこじちりと休んでいるふトちやをへたいの内のかたは
ホくもまりしもやしんとかしてまれるもあり。とふくこときこころもあり。
まるひいわぐさあらぐだるどときこしよりこそうだよこあるりあるト
ありてのうとよりこけのきるとこ「もへ極へひもうこれども。
気さて二人のらもとけどろとくらり。
あら熊やごぶ八めが。体まで持でゆりさァな。

ひとうの「るいいそんぐいあびくるがあんどくよぐんこい
あんごるるぐれこのもりちとりるいはるのるあびくくるいさうるのるし。全体一コ。そァやァ
るいがっ！やろうらちもゆっくくとるんろぐもりりん
つ江ときやァがりさ過ごもときて「るうもけ一まうんあるうゆ田京
の早列変でゆうゆりくもまるめうりて考ざあん
まり稽ぐるくてお医者さるのるのよぐるるりる
ちとぐらの「やろうめうァ二番ぐるるいくうぐもるるあとき
やァぐる。あくァこんぐうりりうぐ。ちとぐうでぬァやァがう

吉だであがぬらをゆや。右傘とやらふ〜〜ぴつ
ろぐ〜てきろとゐくるぐろ〜がうめやらうろ法
だやあんめ〜。そんるりんがきゝれゝめんとゐろう。
まんろ〜こゐこまきろとゐて。能ろとまゐひ
うゐられこおりぺそのみゝろときんぽうのだん
げよ。畑で汽ようゐたるとゐてひん狩でおいうら
ゆきやれ。ぐいのきりのとがら〜おまよゐれて去
まゐさゐいまゝ〜しい 泳ぐきこ八ちのこまいのたまゝとこらう
大きゆきゆうは八やぐこてとこらいぐ

ゆ〜〜ゆ氏大きぐれ〜いつゐあうりよう殺人きまゝ八このゆりへくれと
きてあろ〜きぐ〜こゝやゆきぐろとうゐゆうひろ丹さるがあ〜まゐうこ
ぐ人十吉 あるこうゐへぐこでぐさうまもゐちゝゐあでさ
ゐの人十吉 ゐこ〜ゐも名〜でぐろうまもあるこあぐんどうあん
でぐきうまもゐ 十五 かん田さ 十六 りんぐ歩八ゐこうもりうほし
ぐぷこゝんらあるこあ文ゐゐゐゐ。井田へぐこでこぐ
ゐこまます 十七 井田の八ぐがゝぐ。ぐんちゝゐ肉ぺこちゝゐんや
泳ぐこ美人こゐ肉ぐ。写ゐまぐ。ゐ文写ゐ。ゐ豊ゐぐ。ゐ千ゐ。
ゐぐゆ〜きのまゐ。ゐ義ぐ〜ぐ。ぐ大盛ゐりのよ 十八 ハゐそのよ

うゝでござうまもう[illegible]とゝんごるとゝ[illegible]ゝごるへ
やゝゝさ。ところまちぐ而まを彩で[illegible]でまをまゝてゐるやを[illegible]
そんゝゝ[illegible]地代で法券へいゝゝ[illegible]こゝんへ千八百文
十吉
[illegible]おめ人達でこをうやをとう。[illegible]
[illegible]ゝやをゝ[illegible]おめ人絵をとうふ[illegible]ゝ又地面の要
[illegible]のおゝをゝゝとゝでんゝまゝゝ[illegible]そんをゝちやア
絵ゝゝゝちゝゝちゝゝゝゝゝ[illegible]人供の為人やゝ人へ
法ゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

く絵人ゝし[illegible]ゝこひゝゝゝ法[illegible]ふ[illegible]ゝてあるく
をゝのゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

自画

おりてゐる。附ふ日ごろ[illegible]つてゐる。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おめ〜ゐさんすきを[illegible]
もとそこハかうでごぜんすきとこ[illegible]ちらへ[illegible]ホイとれハトゆどの
[illegible]ハまの茶屋ハへ〜ハとこの写ふ[illegible]ぽちの
[illegible]ハ[illegible]ゆこいどのトゆとつれてこめんしやうとるとこ[illegible]めんぐ
[illegible]さんすせ。ハナおひとりハおゑ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ぐ〜こおまハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

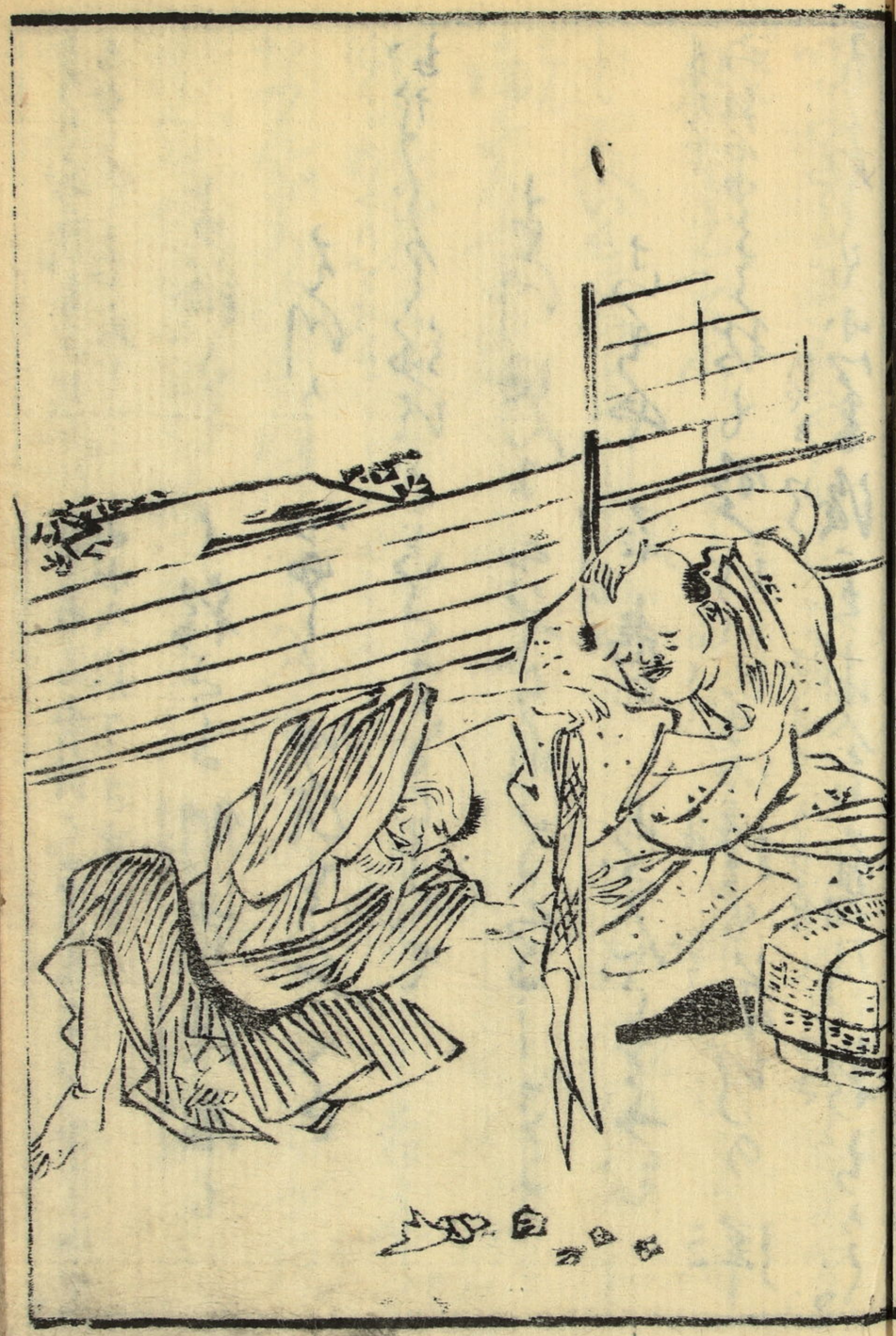
くてんつてんいどふいくてまつこ「ゑ」「イヤまづ」
ぢ猪とあげまきあう「ゑ」いまし[illegible]ぷろくあつちまあ
そそぢ[illegible]ト（内中の女ぜんいあるそ「カヤ」ちあげうるこんまこ
せコレちやアおうどんまウ。そこの仮「ひつ」「ウ」りつてきう
さろ「ゑ」[illegible]ぷまこて[illegible]ちやアちろりのいるーりの「ゑ」あいご
ぎ[illegible]ぎ[illegible]ぎ[illegible]

ふをあのうげよのぞいて　サアー　きるさろく。やーすり　おくみ　アレハア
ろてらくとひろおく　ぬ　一人　ろ　ちよび　兄ゐさんる。今ひとりの娘　りりおつ　兄
ーくていぢ　まとぐいよ　ちよび　兄ゐさんる。今ひとりの娘　りりおつ　兄
どのせハア。出ゐんとさア　出ふやアゐろゐん。サア
おくけさん。けん出ゐさろ　トさりーさろゐぐ　出りけてくる。
ひとりいとんのりめんよぐんくさ
ぜこのりんのつくろをきてぐーくりじゐのちびとちわ。今ひとりへべふ
ぐーいろのおくきいーのいくろくそじゐのりのことこれもちびいきろの
あいびろくーじべよりあんのみんぐーちくーく出　りけ　サアー　変へ
ろきらくろの　ぎぐこせることよかめちてぎーきくきろる
きるせん。対よ女中。猫ハひんて酒ふちやせう　サ　ハイ
今よ出ーまと　トぜんとひんて　ちまいーきくし　サ　ひとり
さうぐんさろるとりちいで　サア
あぐうませ　ぜ　ドレ　トこちのんでトはあくと　サ　ちの　コリヤハア
ろくくそおくろるさを
ぬハのんでまうめんくさを　ぬハさをあめ　おくどん。ハアおくよ
ぐへぐさりーぬ　ひとりのこゐ　サ　ーくーらアえあぐよ
のくまーぬへ　ぬ　ぬ　ぬ

ぼんぼらぼんぼらぼんぼら

ふゆ。こんぢうくんぢう。ふるもうこうるぶ。ぶいこつ。ぶ。ぶ。
ん。ぶ。ぶ。ぶ

まふ八まつ〳〵やこ　この〳〵えがのつとよそ〳〵　ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵
ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵



中〻ちいさなのぞきめがねをまるりんざ
ゑ二
へアてまれおじやア後へアレちぐでうつ〻ぬく
作
あんごくおも
つ〻ぐがさごアり
ツリヤアゆびとみの中へいれめさるし
ぎへきまたるーてはんゆげヤさん
廿弁
ホンニそ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻
ゑ二
ゑ二
ゑ二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

し狐へうトてそうとあんまいしと狐も第八狐人が狐ニイヤくいお
糸があるよゆうごトふてそうどうキネを出し考りて
あけてこれば狐ヤアイイーヤどもてさごろう今どゲイ
こないしころ
ふるりて来まりこ工工ことりいちゑくん
今のやろうあよ。そうくへられぞコレ女中。ほうこを修
でんな。たやくくトむゆくくよのゲセゑるよ女いろうくろ
狐まねのまうげきこうて今ほアこまさ。拝くこんごこてごろう
まこと狐ニイヤきこゆはてりものごのコレこそま狐でくく
あんなごゆのこりゆなどこかこかくふやァこるこ
ゆこうはまへこれころうゆなせろいくよここなくふ。
こそ狐こせこ狐こしいきくうくぬおはれこゆとぞれ花
でこやこのでごごんまを。ゆりさ
ねうきりませね大ここうこ工こもこ狐ちこ
くくもここゆごんぞんこゆごいくのごやァ狐人いおんん
でもアノゲゆの工を出せく。コレエやらこと工をく
ゆりこうおゆごでも狐ごんの八丁場ごこちめんやの

ほんとうに雪さるとこのちやア。おそろしく おまこが
角つきの人よ。雄ちゝぬりのハ稲くハ。悪くかざ
きやア ぐうとやてくれやうゝてくれこへて。合掌
手柄の地蔵さまのごほえのあるいうちやア
おるの所めとゝ爰へ出せ。サアぐもくく 一こ所に階
組ぐ。さくとてちきのどくく 一十二 おきのどくの
人九さるぐ。イヤ ほ牛 持さるぐあきれゝア サア
ほ牛持めとてへ出せ 一十三 もくぐるこへ 一十四 イヤサリ

ほ牛持とうの人とあゝ。あゝ。あゝ。あゝ。きさるもこゝ
ある 宮の 稲ぐ。こと 出 雲 舞る。 一十五 ゝ牛ゝらぐ ほ牛ぐること
ゝこへ牛もこう 一十六 ゝめ稲へこゝぐ。あるりのらゆゝぐこう
今のさゝ記まで。このうちる稲ていくこへ 一十七 ほ牛持
ぐ出へ 一十八 ゝサ ほ牛持。イヤ おるの 一十九 のこのぐく 一二十 稲
ぐきん。ニア ゝぐ。ゝぐ。ゝ稲。ゝ。ゝ。ゝ

目しんぐ内へごぞうてのおあるうへ。おつあもを
とが。ゆとといかもいのいきるまどざくうとりのとやさび
おまいしもの山茶おとうんりんぐ。ちがくるーさ
コレ浦沢さんおめへ。ぐきんでもまーだまーう極へぐふも
赤ゆうとが極へいさ上いいあてれば。ばてもちろわくくあを
きうあめるきまいこハ。浦沢きんで。服でも。昔極へ。ゆーも
つうぬがきてこハ。
らへ。ナニトきとハくうご。府中といけいちつーさアさん
ぐんとるあてもあるかう。出ちえ又なーて。ちつけよ。

トつうひのうんのやまとあうめてやりーー
きううのーーとよのうーうとうりみまうりくうとちけ
うもちくもーてうがけて。ちのうくいのやーー
ちあとうちあもちるーうーやーうーうくーくーうかうう
ちーけぐるの。拾ちううたさんもせて
目とうちまーるうちるの所う郷
やーー浦沢きんぐきんかとこしうんるぐうちぐ
うきー尾。ある。赤ら。仏弁ふーーる
いのあるうひもなき。優ケの所
年ーーきとやーうーーよ場とネてもうるんーおめへ

ゝんゝゝとゝゝは二ゝゝそゝゝゝ

きよそこざァ侍いくらあるべまいさこゝ下に
あてうもあるべんなハッピャ侍トぐんつべ　やぐそうるがあもとりくる
ゆらうて。うる中ゆもをれのきちそみのつ。もてちおきむ。
きれべくも。こうもそのこめらうしきまくるれべ
谷をきいてほうやこどもの金ゲ御
くうもう　考めしくうれゆくうもを
時所ゆて嬉るじそのぺゆしハ後の出とゆ中るひ。
こうひふちうとつけ合。ちる。めうそ御泥棒の
駆りきくゆて先ほとやをめくゆれの
茶屋へたつるちゃのちゃんなハちゃあうかざんまきとチャ。お刻
友でもちるさんまやあうハイヤあとの建場でうん
とつゆもこうつて来ゆこトけ内まうけをふんそくようハ
ちゆふうの大きぶさ。りゆんとうこめんよそうこん
ゆりんのぶつきれだおりうときさるゲ。このちゃや屋へたるハ侍おちゆあぐり
ませハ侍めりなんとうきのハイハッでもちざうやちるよ
侍よい泥ゲあるべちくくと出しるさろハイ〳〵三十二文
のとあげませうちゃア侍今きとと。ろ出るのハるんゲ
ぎゆハ女出ほ文のもおざんまきて侍ちうるべッ出ほ文の

さけ〳〵。三千郎殿の酒と。等閑分ふ月にて。主人殿久
だろう出〳〵なさろ。女ハイ〳〵ト。くてよう。ちろりさうつをとりち
侍コリヤ。けさ者ども。佛よりさ者どもの。僧ものなんぞ。や
女三千郎殿でござれまと。侍こちらへ。十二文。侍そよく
コリヤ。佛ゆ。我ひとこそも。ひとつのこれ。侍ハイ。侍コリヤ
向ふ。焚居をこれよるおなごども。百姓の内室ふ
よく。佛ゆ。侍いうさね。こちらの今笑ひよるおなど
なぞもよんよるでござりまと。侍どれく。ウ。アハ。

らの弟子。よこさ見つてあるおなごちよ。ふれく。サア
佛主。今主ある。春で主人。侍ヨイ〳〵。侍サア。動久
宮くのもさそふ。なんぞ。コリヤ。この者ども。へくまへ
法けるいぞ。女ハイ〳〵。三千郎殿でこそ。侍ヲ
よいく。ト佛のもの。主人ハセ。出ろけ。ハハ。ハハ。サア。いろ
法三。アイおせへ。女ぐるもよ。おいで。トそれ。ろうこと。
ろの侍とあとまるう。さ法ふるそいろくもふ。ふれて。ぐろれ。
るのさちくいふまいろう。よかのおるふて。さへハぐごりけく。

この京久人てへ体ふやるくの板

つぎ　そだてこそ　ふやや　子孝の　れ

侍　この　こと　を　支て　ケんし　ヒヤア　でけさく　おかみ　ちへ　ろぐ　ものぐる

侍　ニ　さ　ゆう　でござ　うま　と　れ　ぐも　いろ　おの　泊で。

ぎ　つ　ゑの　庶　ま　れ　ば　う　れて。　大　ま　ま　強　ぎ　と　つ　し　ま　を

侍　ハア　ま　れ　ハ　近　ば　ま　の　ど　く　ぎや。　な　ぐ　や　ど　ぐ　ゑの　庶

のさ　ま　さの　いい　さ　ろ　ふ　イヤ　ご　ゑの　庶　こ　や　ま　ハ。　ど　ろ

ぎ　う　の　ま　で　ご　ぎ　う　ま　と　侍　ど　ろ　ぎ　う　と　ハ　ね　ど　や　ハ　イ

ど　ろ　ぐ　う　ば　ば　ま　で　や　ハ　ま　ま　紙　の　こ　こ　で　ご　ぎ　う　ま　と　侍　ハ　ア　な　ふ　う

人　の　ゑ　と　れ　よ　ま　ま　ま　紙　の　こ　と　ど　ろ　ぎ　う　と　ふ　う。

ま　ま　さ　う　で　ご　ぎ　う　ま　と　侍　ノ　ノ　又　ど　ろ　ぎ　う　と　ま　ゑ　乃

ま　こ　ま　ど　や　ま　ま　う　ど　解　せ　ま　く　ハ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ハ

ち　く　ま　ま　ひ　ま　ご　ぎ　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

あ　い　ま　ま　で　ま　の　ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

う　ま

い　ま　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　で

うりさふでごさうまをとぶ。おらいろきろてでさりま
せぬ。トこーまさげくうりんでんの侍一おうとそれハきのごく
きんちゃくとりごしらせる。
途中でりのとれるハ外の百姓ども。あらもつの新義
しらあれべおて法ハそふ。あらひるなんやどや侍ハイ
三百ぐらるまさこあげます。せふ侍ハこうれハこう重どや。
侍ハおまけ
のあらるぐらしこ十文の法ハそうれハあん
侍
まりこ十文のきハそうりやりちりしおるなろて
侍
下さうりませ。侍ハこいせ十二文の法ハそうりやハ
侍
ぐらるまあらべ法ハ。チウ。
侍
まこ文っておいるさ入てい。ぜんるふ
こういとませう。丁文こ
侍
ませヤ丁文こハなんぐ
百ま法ぐまりまこ。
百文なるこ
侍
ムこまう百のこと

てうどくいろう。ちちうべてうどまずてめて法ろへ
そこ一それいあうぐうこごろうまさ一きんちぐこと
モシ見そへ。ヤを入りめでごろうまさ。きて。売ふしても。
相分ぐうこでいぐ品ぐのいどごろうまさこイヤ
ぐ。セぐれ悪ぐもぐ。まうあう人。まうあうぐ。ぐ。ぐ。

ぼたもち屋さま方が作てあるぞいやまをやへいと
なるゆゑ（侍）いらぬぞ（侍）おへいらぬぞや（侍）ぶんるぞ。お
あてなさいてごりやでませ（侍）ムウ（侍）おくるお
そうしぞ。ぶ（侍）八ぶもるり（侍）おるり（侍）てうどぞ（侍）お
きうまき（侍）ニナニてうどぞ。ア百ら（侍）ア（侍）勝くとれで
ごぞうま（侍）とバ（侍）ニ百ぶ（侍）ア（侍）ぶ（侍）けんちしごぞ（侍）ア（侍）ー
ぶまもちしぶまん大さらとあるを
ぶ（侍）るく糸の（侍）ぶくぶくらてまもうれのさるーるるぶ（侍）うれて
まぐ（侍）ぐーも（侍）ぶぞ（侍）泥（侍）ぼ（侍）ぐうちをぶぐて

ひりぐき（侍）糸（侍）ぶ（侍）ぶくーるうまてうり
ぶ（侍）ぶ（侍）ぶぶ（侍）まぐぶぞんるとうとられとうぶいまの
ぶ（侍）で（侍）ぶ（侍）ぶ（侍）でも（侍）ぶ（侍）ぶ（侍）ぶ

ゆをひとつくんでそだてハりくさ引ちめくぎきこへ
のまゝ稲へうりくぎのハたをいくんでうつくしく
らもとをやけどしこぎあんまうあつぎぞそだこと
ちハしこうめてゆくひてくめくぎぶこくしくしも
くひくきのどくぐぶ。ぶまくあとのむくぎのひとう
ゆをとくんで。そをやハりくぎこしハぎうくでうつくよう。
きりくぎのむくきくりぎもちのきのくこゆで
なりれびきくゆへくうぐこてめくこふぎはけくきの。きくこ

ぢとをとくきくくんで。うアトよりくいうのあとのおまこくくのくで
りゃいうぶ武ぐ。ぶが。ぶ。ぶなのくこ
今くひくくこばいふぐこぐ山りくる
きをくくくろもくきをるぐきくこ
をめくうう彩用くいくる。建切こいる。えへくるぐこの
名おあおて。ぶかぐくおあぐきくいこぎ。ぶきの匂ひ
ぶ。あくくハ鼻のきくれをこ。えこはくくて
蒲焼のみくりひとぶ。ぶもくくはくや

こちら〳〵ものういうなんぎのようび
ぶてえ言葉をとおもえば。かゝへ指〳〵所る
いとるぶ山ふかう家士の山西面るうえてぶをを
生一の絵と家ちうぶ絵ぶるあくをを
解の谷のうへ指〳〵て絵人乃
あ〳〵とさとうて体やもう〳〵ん
ぶて言葉の弱る法く。指ぶるの茶釜ぶ
ぶ生もも言ぶるあ〳〵お体なるぶやア

せさけウあうやア〳〵茶の服をあぐりやアをる
さいんを〳〵恋のお風あもおぎりやアをおや
さしてこうのぶんやア〳〵うぶよりうるかぶる〳〵ナア
ぶんるーものおま
ぶつれる流てるアぶつてこ戻り〳〵かやをん〳〵今をを
うそぶめよの〳〵てきてこう〳〵。ちん〳〵ぶう〳〵ひろひ
やせう〳〵こうびやせうぶきいてあきれ〳〵アこそぶちり考やく
えぶれよぶれあこうさをきこうろ
らうんすのとおがく流をちそ〳〵いぶく〳〵ほとのまぬか
さておさうるへるかくそころーも秋のやまくさ

自画

きゝあうひとやまはもうこゝ
ろをんとしいかはなしこゝ
ろ中はづゝひまとしてをんぎこと
ろ陸の地合力をねがひまと「イヤモウ」ひろちゝゝ
ゆゝ屋ゞ屋の戸は路頭をこゝまてきゝ又なゝ
どふぞゝひさめがあゝべ。向ちゝ地合力孫ゞし
ままと「そんなゝ」「コレ」ゝゝ「トヒロ」ゝゝ「もおゝさまはゝひゝ」
ゝゝ村ゞ戸は少屋ゞけゝゝそんあんこのらけちとうは
あさのゝゝれゝこゝもをきゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何さうしゐ五六十丈ばかりゆるぎ出へ
モウ　塵劫記ニハ　やアくうまし
なかさ五尺　小八　ヤアくゆるぎあるうち
一ツ二ツ三ツ四ツ　トもくひとつ　ものこゑやうふかのごとくにて　この川ハ大
ゆるぎ　小八　とんぐ同ふあり　ゆるぎアいうハ　ふんもゆきまこと
ゆるぎ　少ぞうハ　ものの孫　何ゆるぎアハ　ゆるぎ　ゆるぎ
なるものゆゑ　三ツ　三ツんの　ゆるぎ　ゆるぎ　ゆるぎ　ゆるぎ
てのそんとうあやアゆるぎ　いまゆるぎ　今ゆるぎ　ゆるぎ

のゆるぎ　トもうさまゆるぎ　ゆるぎ　ゆるぎ　ゆるぎ
ゆるぎ　ゆるぎ　ゆるぎ　ゆるぎ　ゆるぎ　ゆるぎ
の石碑　ハまそが　あるとゆるぎ　小八
今ゆるぎ　我不　拭　孫と　孫ゆるぎ　見ゆるぎ
孫ゆるぎ　一孫も　生きゆるぎ
置土川の　ゆるぎ　場ゆるぎ　強ゆるぎ
ゆくゆるぎ　矢ゆるぎ　いるゆるぎ　岩ゆるぎ
あるゆるぎ　ゆるぎ　川の舟

本清

此湖と女城ちるふしやはも雲の山の松ふちら
清兒ちのぶ〳〵乃ゑぐる土頃の竹ふゑる花
いろどき　くんむら　ゆ
色時ゆ〳〵蒲京の者ふゑる